

2011年 行政視察研修

10月19日～21日

長野県 佐久市・木曾町・阿智村に

生活交通システム・保健行政・観光振興策を先進地に学ぶ



木曾町役場



中山道・妻籠宿



佐久市役所

生活交通
システム 木曾町
 交通網はライフライン

〈取組状況〉

木曾町では、住民の足（生活交通網）の確保を、まちづくりの基本とし、幅広い市民の代表（運輸局、町、長野県警、JR 駅長、観光協会、小中学校長会、地域自治組織の会長など）からなる地域公共交通協議会をたちあげ、住民アンケートや聞き取りなどで意見集約を行い、現在のゾーンバスシステムを導入した。

幹線バスと、それを補う、デマンド乗合タクシーや地域循環バスを組ませ、きめ細かな交通対策となっている。

◎ 市街地と各町村間の幹線バス 1回200円

◎ 地域内の移動に使う巡回バスや乗合タクシー 1回100円
 他、通勤、通学定期や、乗継割引なども設定されている。

〈課題・所見〉

平成22年の事業収支は1億2800万円の赤字だが、特別交付税で8割、残り2割を一般財源で賄っている。運賃が安価で交通協議会からは、値上げの声も出ているが、町長は交通体系を町民のライフラインと捉えており、特別交付税が続く限りは現行の運賃を維持するとの姿勢を示している。

木曾町の全住民が月2回利用すれば黒字になるとのこと、職員のノーマイカーデーや個人時刻表の配布など

の対策を行っている。本市も財政状況を考えた上で市営バス事業、福祉対策により住民の足を確保しなければならぬ。

木曾町交通体系の枠組み ゾーンバスシステムの導入

幹線バス

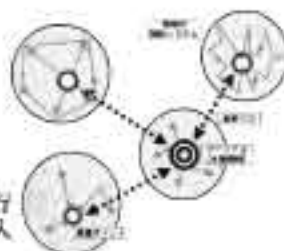
地域の交通網の主軸となるバス。木曾福高市街地から、旧3町村の中心部までを連絡

巡回バス・デマンド乗合タクシー（補助システム）

地域内々の移動や、幹線バスとの乗り継ぎのために運行巡回バス、デマンド乗合タクシーを地域にあわせて導入

乗継ぎポイント

各地区の支所など主要地点で幹線バスと補助システムの結節を行う



デマンドタクシー 巡回バス 路線バス



保健行政
ワースト 佐久市
 「脳卒中死亡」率全国1から、
 「健康文化賞」を受けるまちに

〈取組状況〉

佐久市は脳卒中死亡率ワースト1だったが、

識の高揚に貢献している。保健補導員は、延べ2万5千3百人に達している。

病院と連携し「減塩運動」「一部屋温室づくり」「食生活改善運動」などに市民一体となって取り組み、脳卒中の死亡率を、全国平均より下げ、「健康文化賞」を受賞した。平成18年に「健康長寿都市宣言」を行い、保健予防事業のほか、「びんころ運動」など85の高齢者支援事業に取り組み、高齢者が生涯現役で生きがい豊かに暮らせることを目指している。

高齢者大学や公民館活動、老人クラブ活動、スポーツ活動が活発で参加しやすい条件整備ができています。従って平均寿命が長いが、寝たきりや、認知症の高齢者が少ない。1人当たりの老人医療費はここ4年間は下から3位以内と、取り組みの成果が表れている。

〈所見〉

佐久市の取り組みは目標が明確であり、支援事業は高齢者の実態に合致している。市内開業医と良好な関係で、連携を密にし、「世界最高健康都市」を目指すという市の姿勢は、

昼神温泉観光局にて(株)昼神温泉エリアサポートの代表取締役から、観光戦略についての話を伺うことができた。

〈取組状況〉

観光振興策
阿智村
 「誘客戦略と品質管理を」



びんころ地蔵

昼神温泉は昭和48年国鉄のトンネル試掘時偶然に発見された温泉郷で出湯38年余りの日本で一番新しい温泉地であるとのこと。歴史は浅いが観光客は年間76万人と、奇跡

の温泉街で当初2軒だった温泉旅館も現在18軒が営業している。愛知万博により一時、好景気になった時期があるが、7、8年前から温泉不況が続いている。その対策として企業とのタイアップ、メディアの誘致等により知名度の向上、イメージアップを図るため(株)昼神温泉エリアサポートを設立し、情報発信や集客のけん引役を果



昼神温泉 朝市

大いに参考になる。

たしている。

〈所見〉

観光産業は、精通したスタッフを置き、何を誰がやるかである。観光は行政主導では限界がある。観光業としての長期的な展望を立てにくい。アンテナを広げ時代の変化に対応したマーケティングと観光業の品質管理を

徹底する必要がある。イベントだけでは観光産業に発展はない。費用対効果の検証、地域の理解度アップが不可欠だ。

行政の万人賛同型組織から、地域戦略優先型へ、将来を見据えた戦略を着実に実施していくという考え方は参考になった。